

## 編集後記

日韓歴史共同研究委員会第1分科ではおよそ3年にわたって、両国における古代日韓関係史研究、特に4世紀から6世紀の主要な課題に関する研究の現状および解釈について、6名の委員が共同で研究・調査を進めてきた。このように両国の専門研究者がしぼられたテーマについて、同じテーブルで顔をあわせながら継続的に緻密な議論を積み重ね、率直な意見交換をおこなったことは、これまであまりなかったのではないだろうか。

第1分科に参加した各委員の間では、共同研究の位置付けをめぐって、多様な学説についての歴史研究上の問題としてとらえる見方や、日韓両国の首脳会談の合意事項といわゆる日本の「歴史教科書問題」に結びつける見方などがあり、必ずしも立場の一致しない面もあったが、おおむね友好的な雰囲気の中で共同研究を進めることができた。

20回におよぶ合同分科会においては、有益な意見交換により相互理解が深まることもあった一方で、史料解釈の前提となる研究のスタンスの違いを痛感し、共通の認識を得ることが容易ではないことを改めて感じる機会ともなった。また、微妙な問題をめぐる通訳・翻訳について双方苦勞を感じることも多々あった。しかし、今回の共同研究・調査は、わたくしたちにとってきわめて貴重かつ有益な経験であり、実りある成果を得たと考えている。

合同分科会では、各委員の研究発表と討論にとどまらず、重要な史料や遺跡の調査を共同でおこなったことも貴重な機会であった。日韓両国で関心が寄せられている多くの遺跡・史料などを調査する中で、今後共同して研究し、検討すべき日韓関係史分野の課題が見えてきたことも重要な成果の一つといえよう。

この共同研究はひとまず終了するが、今回の貴重な成果を踏まえて、新しいレベルで日韓双方による共同研究・調査がさらに展開されることを望んでいる。また、わたくしたち自身も、この成果の上に立ち、一層の研究を進める努力を続け、それを各方面に発信していきたい。

この報告書は、日韓双方の委員の合意のもとに、各委員の研究成果等をそれぞれ同じ内容で日本語版と韓国語版に編集したものである。本報告書が今後の日韓関係史研究をより深め、ひいては両国青少年の未来志向の友好協力関係に向けた歴史教育にも、多少なりとも寄与することができれば幸いである。

最後にこの3年間、合同分科会開催および遺蹟・資料調査に協力してくださったゲストスピーカー、諸機関そして多くの方々には厚く謝意を表したい。また、事務局として第1分科の運営に献身的に努力してくださった日本側の財団法人日韓文化交流基金、韓国側の韓日歴史共同研究委員会事務局の方々に深く感謝申し上げる。

2005年3月26日

日韓歴史共同研究委員会

第1分科委員一同